
身代わりの恋

暁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

身代わりの恋

【コード】

N2002BA

【作者名】

暁

【あらすじ】

死んでしまった大好きな彼女と同じ女性に出会ったら…あなたは
どうします？

(前書き)

某小説賞に応募して落ちた作品の、いらないところを切った作品です。

元は原稿用紙21枚です。

切り取ったのにまだ長いですね…。すみません。

僕には大好きな彼女がいて、結婚まで考えていた。
でも…事故で彼女は死んだ。

…はずなのに、今日、死んだはずの彼女に出会った。
驚いた僕は、思わずその人の腕を掴んでしまう。

「…あの、何か用ですか？」

「えっ？…あつ！ごめんなさい！その…あなたが知り合いにそっくりだったから…」

とりあえず、僕は掴んでいた腕を放す。

「…私、つい最近フラれちゃったんです。だから寂しくて…もしお時間あるなら、今からお食事でもどうですか？」

「えっ！？も。もちろん、よろこんで！」

「自己紹介がまだでしたね。私は杉本 早苗さなえと言います。よろしく
お願いしますね」

にっこりと微笑ほほえむ彼女に、僕は少し見惚れてしまった。

「ぼ、僕は中村 剣人けんと。こちらこそよろしく！」
こうして、僕と早苗の交際が始まった。

しかし付き合えば付き合うほど、身長は死んだ彼女のほうが少し高い、早苗の方が大人しいなど、死んだ彼女と同じところや違うところを探してしまう。

結局僕は早苗を愛していないのかもしれない。死んだ彼女の代わりとして、愛しているのだろう…。

数日後、僕は友人と街を歩いていた。

「剣人、このあとどうするんだ？」

「大学のレポートがまだ終わってないから…お願い！手伝って！」

「別にいいけど、謝礼代わりに何かうまい物買ってくれよ」

「わかった。ありが…」

…あのカフェテラスにいる子、もしかして早苗？

「ん？どうした？何見ているんだ？おお、可愛い女の子じゃん」

「ごめん、僕ちょっとあの子と話してくる！あとでメールして！」

「了解！」

僕は早苗に気付かれないように、早苗に近づいた。

「早苗、新しい彼氏どう？」

「ちよっと小心者で優しいイケメンよ」

「へー、会ってみたいな」

「会わせてもいいけど、私が演技していること喋るでしょ」

「それもそうね」

2人は楽しそうに笑う。

早苗…演技していたんだ…。

「…あつ、あそこにいる人、前に写メで見せてもらった、早苗の彼氏そっくりなんだけど」

「えっ？」

うわ、2人に気付かれた…。

「……えつと、久しぶり？」

「あ、私は帰るから、あとは2人で話してて」

「ちよつと、先に帰らないでよ」

早苗の友達はテーブルにお金を置いて、帰って行った。

「……」

「……」

き、気まずい…。

「……ウソをついてごめん」

先に喋りだしたのは、早苗だった。

「そつちが本当の早苗なの？」

「うん。実は私、とっても元気系なの。でも、その元気すぎる性格が原因で彼氏と別れて…次はこうならないように演技していたの…」

「そうなんだ…でも、僕の前では演技しないで。僕は性格はあんまり気にしないし、早苗の事が好きだから」

「…ありがとう」

この日から、僕達は一気に仲良くなった。

それから数か月後…。

「剣ちゃん、いる？」

部屋の中はシーンとしている。

「んもう！せつかく昨日もらった合いかぎを使い、剣ちゃんが住んでるマンションの部屋に来たのに！あちで高級スイーツケーキを奢おごってもらわなきゃ！…それにしても、ヒマね」

窓枠をスーツと触ると、指に埃ほこりがたくさんついた。

「…剣ちゃんが帰って来るまで、部屋の掃除でもするか」

早苗は早速掃除をする。

そして、数時間後…。

「ん？何これ？」

机の上に、写真を見つけた。その写真に写っていたのは…。

「私？…いや、違う。私はこんな写真を撮った覚えはない。でもこの人…私にそっくり。まるで双子みたい」

写真を取り出し裏を見ると、

『千苗ちなえと僕。』

死んでしまった彼女を僕は忘れない。

僕は彼女を永遠に愛し続ける。

永遠に…』

と、書かれている。

『その…あなたが知り合いにそっくりだったから…』

剣ちゃんと初めて会った時の言葉。

知り合いって、この千苗って人？

剣ちゃんは私を千苗として愛しているの？

「でも…それでも…」

同時刻、剣人は早苗の家の、早苗の部屋にいた。

「うーん、前に勝手に入ってもいいって言われたから入ったけど…
本当によかったのかな？…ん？この机の上の写真立てに入っている
写真に写っている人…僕？いや、僕はこんな服は持ってない」

写真の裏を見ると、

『剣士けんしと私。』

彼と別れても、私は彼を愛し続ける。

彼を絶対に忘れない…』

と、書かれていた。

…剣人と剣士、顔だけじゃなくて、名前もよく似ている。

僕は早苗を千苗の身代わりをしているけれど、早苗は僕を剣士の身代わりをしている？

「でも…それでも…」

次の日、2人は公園デートをしていた。

「剣ちゃん、次はどこに行く？」

「早苗の好きなところでいいよ」

「んー、じゃあ、デパートでお買い物が見たいな」

「いいね。よし、行こうか」

「うん！」

2人は手をつないで歩きだす。

…僕は剣士の身代わりだと思う。

私は多分、死んだ彼女の身代わり…。

君
んだ
でも、あなたと一緒にいられるなら、身代わりの恋でも構わないの。
…。

(後書き)

散々書いてきましたが、作者はあまり身代わりの意味をよく分かっています。

意味がいつぱいありすぎなんですよ…。

最後が少しずれるかもしれませんが、パソコンの都合で直せませんのでそのままにしておきます…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2002ba/>

身代わりの恋

2012年1月5日00時49分発行